

第6回日本訪問歯科医学会

『口腔ケア元年－高齢化社会における歯科医療従事者の使命－』

- 平成18年11月12日(日)
- 東京国際フォーラム ホールD

■ プログラム

1. 特別基調講演 『介護予防新時代における口腔機能の向上支援とは』
日本大学歯学部摂食機能療法学講座 教授 植田 耕一郎
2. 特別基調講演 『歯科診療中の救急蘇生－AEDを中心とした新しい救急蘇生法』
鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座 教授 深山 治久
3. 協力講演 『サービスとしての選択－介護事業者から見た利用者の視点－』
アースサポート株式会社常務取締役 亀ヶ谷 敏幸
4. 協会講演 『訪問患者の咬合回復による SpO₂ の変化』
北川歯科医院院長 北川 博一

『往診現場での摂食嚥下トレーニングの方法』
筒井歯科 歯科衛生士 羽山 やよい

『訪問歯科診療、現場での実態』
医療法人恵裕会ほかお歯科クリニック 有吉 正隆

『非対称顔貌患者に対する ABE 咬合器及びシンラシステムを用いた治療法について』
早川ホワイト歯科院長 早川 讓吉
5. パネル講演 『療養型病院での口腔ケア』 守口歯科クリニック
『本当は私は入れ歯が得意なのですが』 桐山歯科医院

『介護予防新時代における口腔機能の向上支援とは』

日本大学歯学部摂食機能療法学講座 教授

植田 耕一郎

平成 18 年 4 月に改正された介護保険には、新予防給付という新たな制度が施行されました。その中に「口腔機能の向上支援」という柱が導入されています。前介護保険制度には、口腔内に関するアセスメントや文言が皆無に等しい状況であったのが、制度として「口腔を通じての自己実現」たる項目が明記されたのです。これにより介護状態になることを予防し、増え続ける要介護者になんとか自立支援をしていこうというのです。

われわれは医療従事者ですが、今回の介護保険は、歯科医療に直結する問題となりました。水面下で、口腔機能の障害のために泣き寝入り状況であった要介護高齢者に対して、特に診療所の役割は、今までになく重要性を増してきます。

こうした社会状況を背景に、今回は、以下の点について検討してみたいと思います。

1. 「口腔機能の向上」, 「摂食機能訓練」の必要性和効果
2. 平成 18 年度改正介護保険における診療所の役割
3. 「口腔機能」の普及, 啓発と未来の歯科医療像について

私は病院勤務ですが、在宅や施設への訪問診療、そして診療所での外来診療など、それぞれの現場で展開されている内容との相互間のギャップが埋められ、実践的な話し合いの場がもてれば幸いです。

【略歴】

植田 耕一郎 (うへだ こういちろう)

昭和 58 年 3 月	日本大学歯学部卒業 (学部 31 回卒)
昭和 62 年 3 月	日本大学大学院歯学研究科修了 (歯学博士取得)
昭和 62 年 4 月	日本大学歯学部助手
平成 2 年 6 月	東京都リハビリテーション病院 医員
平成 11 年 4 月	新潟大学歯学部加齢歯科学講座 助教授
平成 16 年 4 月	日本大学歯学部摂食機能療法学講座 教授

平成 17 年 厚生労働省介護予防検討委員会
口腔機能の向上支援マニュアル研究班 主任研究者

新潟大学大学院非常勤講師

愛知学院大学非常勤講師

東京医科歯科大学非常勤講師

神奈川歯科大学非常勤講師

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会理事

日本障害者歯科学会学術委員

日本老年歯科医学会評議員

【著書】

1. 植田耕一郎：脳卒中患者の口腔ケア，医歯薬出版，2000年。
2. 植田耕一郎：患者説明用・教育用ビデオ 要介護高齢者の摂食・嚥下リハビリテーションと口腔ケア，デンタルダイヤモンド社，2001年。
3. 植田耕一郎編他2名：口と歯の病気マップ，医歯薬出版，2003年。
4. 植田耕一郎監修：歯科衛生士のための介護予防，クインテッセンス出版，2006年。

『歯科診療中の救急蘇生— AED を中心とした新しい救急蘇生法 —』

鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座 教授

深山 治久

訪問歯科診療では、何らかの理由で診療室に來られない患者さんを対象にするのですから、重篤な全身疾患をお持ちの方がとても多いことは今更申すまでもありません。先生がそのような患者さんを診療中に、突発的な事態が起こる可能性があります。この時、先生は適切で安全な対処ができ、患者さんの生命を救えますか？

今回の講演では、昨年に引き続き、実際に発生した全身的な偶発症の対処法を分かりやすく説明いたします。さらに、近年、注目を集めている自動除細動器(Automated External Defibrillator, AED) を中心とした新しい救急蘇生法を紹介し、皆様の知識と技術の update を図り、安心して訪問歯科診療を行えることを目的とします。

【略歴】

深山 治久 (ふかやま はるひさ)

- 1981年3月 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
- 1981年4月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科入学 (歯科麻酔学専攻)
- 1985年3月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科修 (歯科麻酔学専攻)
- 1985年4月 東京医科歯科大学歯学部附属病院医員 (歯科麻酔科)
- 1986年4月 東京医科歯科大学歯学部附属病院助手 (歯科麻酔科)
- 1989年3月 米国カリフォルニア大学ロスアンゼルス校 (UCLA) リサーチフェロー (1991年9月まで)
- 1998年4月 東京医科歯科大学歯学部附属病院学内講師 (歯科麻酔科)
- 2000年4月 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 麻酔・生体管理学 助教授
- 2004年4月 鶴見大学 歯学部 歯科麻酔学講座 教授
- 1985年9月 日本歯科麻酔学会 認定医
- 1994年5月 日本歯科麻酔学会 指導医
- 1999年4月 日本老年歯科医学会 評議員
- 1999年4月 日本老年歯科医学会 編集委員・用語委員
- 2003年9月 日本歯科麻酔学会 広報委員
- 2004年1月 日本歯科麻酔学会 評議員
- 2004年9月 日本老年歯科医学会 理事
- 2005年1月 日本歯科麻酔学会 歯科麻酔専門医

【著書】

1. 口腔外科卒後研修マニュアル. (財) 口腔保健協会, 1995
2. 最新歯科局所麻酔ハンドブック. ヒョーロン・パブリッシャーズ, 2001
3. 麻酔科診療プラクティス. 文光堂, 2001
4. 医療事故防止のための安全管理体制の確立に向けて. 日総研, 2001
5. 歯科麻酔学. 医歯薬出版, 2002
6. 安心・安全な高齢者診療. デンタルダイヤモンド社, 2003
7. 難治疾患患児の歯科的対応. 東京臨床出版, 2003
8. 歯科医師のためのモニタリング. 口腔保健協会, 2004
9. 予防補綴のすすめ. ヒョーロン・パブリッシャーズ, 2004
10. 新看護学. 医学書院, 2005
11. 一から学ぶ歯科医療安全管理. 医歯薬出版, 2005

『サービスとしての選択－介護事業者から見た利用者の視点－』

アースサポート株式会社 常務取締役
亀ヶ谷 敏幸

2000 年公的介護保険導入より 6 年半、はたしてどれくらいの人が現在の状況を予想していたでしょうか？

単に要介護高齢者に介護サービスを提供するだけであれば、従来の形とほとんど変わっていませんでしたが、この介護保険制度で成長した企業には 2 つのポイントがある。第一に、競争の原理によりサービス自体の質が高まった。株式会社である民間にとっては、『介護』はボランティアではなくサービス業。第二に、ネットワークの構築により、介護サービスの視点が高まった。利用者を取り巻く、福祉・保健・介護・医療が密接に連携を図れるようになった。

予防介護という新たな施策を通じ、地域ネットワークを構築することが、将来的なビジネスモデルとなる。ボランティアではない、あくまでもビジネスとして目先の利益のみに囚われる事無く、地域に密着し地域で必要とされる存在になることで、利益はあとからついてくる。

【略歴】

亀ヶ谷 敏幸（かめがや としゆき）

昭和 59 年 3 月	調理師専門学校を卒業	1 年間の社会経験後、渡米
昭和 60 年 9 月	マリオットホテルにて和食部門チーフ就任	
平成 4 年 8 月	アサヒサンクリーン株式会社入社訪問入浴に従事	
平成 8 年 10 月	アースサポート株式会社設立に参加	業務係長
平成 9 年 10 月	同社取締役事業部長就任	
平成 13 年 4 月	同社取締役事業本部長就任	
平成 15 年 4 月	同社常務取締役就任	

現在、介護事業部門・サービス事業部門を担当

『訪問患者の咬合回復による SpO2 の変化』

北川歯科医院院長

北川 博一

私たち歯科医師は高齢化社会を迎える環境の中で、介護保険の導入、医療知識の向上、社会基盤の整備等々の新しい分野の中で対応していくようになりました。訪問歯科診療もその中で、特徴ある診療体系を構築しつつあるようです。訪問先での診療は診療室内での治療と異なり、口腔環境、患者の状態、体位、限られた材料等の中で時間的な制限内でいかに最大限の診療行為を提供できるかが課題となっています。

今回、訪問先で脳梗塞など意思疎通の図れない患者、咬合力の弱い患者に対して総義歯を作製・装着するまでの過程について、咬合調整を含めて説明したいと思います。

また、このような疾患のある患者について咬合回復を僅かに回復させることで、パルスオキシメーターで動脈血酸素飽和度（SpO2）に違いがあるのかどうかを手指・前額部でそれぞれ測定し、その結果について報告したいと思っています。

【略歴】

北川 博一（きたがわ ひろかず）

昭和 52 年 広島大学歯学部卒業

昭和 55 年 久留米大学医学部口腔外科退局

昭和 55 年 現在地に開業

医学博士

『往診現場での摂食嚥下トレーニングの方法』

筒井歯科 歯科衛生士

羽山 やよい

口腔ケアの際に、“むせる”ということがきっかけとなり、8年前より摂食嚥下トレーニングに取り組み始めた。

患者とその家族が抱える問題に答えるためのトレーニング内容、患者が毎週飽きずに楽しんで行える工夫や雰囲気づくりの試行錯誤の結果、現在当院で行っているメニューとその実際を紹介したい。

【略歴】

羽山 やよい（はやま やよい）

1996年 堺歯科衛生士専門学校卒業

1997年 筒井歯科勤務

1998年 筒井歯科往診スタート

『訪問歯科診療、現場での実態』

医療法人恵裕会 ほかお歯科クリニック

有吉 正隆

当院が日本訪問歯科協会のお世話になるようになり早くも1年以上の年月が経過しました。当初は医院近くの施設に昼休み時間を利用しての訪問診療でしたが、お蔭様で現在では、毎週月曜日から金曜日まで朝9時から日が暮れるまでぎっしり予約が埋まり、患者様には予約待ちをして頂かなくてはいけない状況にまでになりました。

当初、訪問診療に行くよう理事長から辞令を頂いた時には、「往診車のこの限られた空間で治療が出来るのだろうか？」普段広い往診室で健康な患者様しか診たことのなかった私にとって、重度認知症や身障者の患者様に、当初は今まで経験したことの無かった訪問診療そのものに習熟するための格闘の毎日でした。そこで私が最初に掲げた目標は「院内と変わらないレベルの治療を往診車でも提供しよう」という事でした。

それから1年、多くの患者様や介護職の方々と触れ合い、より良い診療をと考え続ける毎日を送っています。

【略歴】

有吉 正隆（ありよし まさたか）

1999年3月	九州歯科大学卒業
1999年4月	九州歯科大学臨床研修歯科医
2000年3月	九州歯科大学臨床研修歯科医 終了
2000年5月	おおくら歯科医院勤務
2004年2月	スマイルラインデンタルクリニック勤務
2004年8月	らいおん歯科クリニック勤務
2005年3月	医療法人 恵裕会勤務
2006年	訪問診療部長として現在に至る

『非対称顔貌患者に対する ABE 咬合器及びシンラシステムを用いた 治療法について』

早川ホワイト歯科院長
早川 讓吉先生

寝たきり、引きこもりの患者さんが、治療が進むにつれ、だんだん元気に明るくなってきた、あの患者さんが大きく変わるきっかけをつくった治療法を具体的に発表します。

歯科医師の方にとってはいろいろな意見があるかもしれません。しかし、患者さんのご家族や介護をされている方にとってはあまりにも大きな変化が出ることに驚かれるかもしれません。この発表をもとにさらに多くの訪問歯科医がそれぞれの研究成果を始めるられるのではないのでしょうか。

【略歴】

早川 讓吉（はやかわ じょうきち）

昭和 56 年 4 月 日本大学松戸歯学部卒業
昭和 57 年 7 月 ホワイト歯科前身早川歯科開業
昭和 58 年 4 月 日本大学歯学部補綴Ⅱ入局
平成 2 年 4 月 補綴学歯学博士
平成 2 年 5 月 日本大学歯学部補綴科兼任講師

荏原歯科医師会理事、日本補綴学会会員、
日本大学松戸歯学部同窓会本部常任理事、
日本大学松戸歯学部同窓会東京支部連合会専務、
日本訪問歯科協会常任理事
日本訪問歯科医学会副学会長

『療養型病院での口腔ケア』

守口歯科クリニック

【略歴】

守口 憲三（もりぐち けんぞう）

岩手県歯科医師連盟理事長

岩手医科大学歯学部学会評議員

盛岡大学評議員

日本歯科臨床医学会実行委員長

南カリフォルニア大学歯学部同窓会日本支部理事長

日本訪問歯科協会理事長

厚生労働省認定臨床医指定施設

ISO9001. 2000 取得

『本当は私は入れ歯が得意なのですが・・・』

桐山歯科医院

【略歴】

桐山 立志（きりやま たてし）

1984年 朝日大学歯学部卒業

2005年 桐山歯科医院開業

日本法医学会

日本顎咬合学会

日本歯内療法学会 所属